夕刊
磐城新聞
五月三十一日發行
（日曜祭日翌日休刊）
發行所 磐城新聞合資會社

石城地方に於ける先住民の遺跡に就いて

山口彌一郎

一

先日大浦村に洞窟が發掘されて新聞に報道され、如何にも私までが考古學研究家でもある樣に言はれ全く恐縮して終つた。昭和五年の春以來石城地方の先住民の遺跡を暇のある毎に探り立ててはゐるものの、骨董じみた發掘物の蒐集をやつてゐるでもなければ、鑑定の素養がある理でもない。

貝塚分布線の位置が當時の海岸線を定むる一つの標準になると言ふ事を知つて石城地方の地形研究の資料としたい考へから先づ貝塚の位置的調査から出發した而して現在の町や村は今見らるる樣な具合に南の日當りのいい山麓とか、洪水を避けて海岸の古い砂丘の跡とか或は漁村は强い西北風を受けても波の比較的荒立たぬ位置に出來るとかしてゐるが、同じ人間である以上營て住んだ人々もそれ等の條件を少しは考へたらう否考へると言ふよりも文化の低い時代であつたからそれ等の條件のない土地には悉らくは住めないではなかつたらうかとも思はれる。

現在は種々の文化が交錯されて我々の住居に適する自然的好條件等が反つて我々の眼から蔽はれ、たゞあくせくとしてゐるではなからうかとすら思はれる。

我々の自然に合つた村落の姿を見究めるには先住民の遺跡に聞いてみなくてはならないものがある樣に思へる。

それで私は先住民の遺跡の位置的調査を手離さずに居るだけである。

○

石城地方にある先住民の遺跡として見られるのは石器、土器類の散布地或は包含地及び貝塚、横穴等である。貝塚が本邦で最初に研究されたのはモールス博士が日本に來朝して大森を通ずる汽車の窓より發見された明治十年に始まる、今も汽車の窓から其の記念碑が見える先住民が漁獲を生業としてゐた時代、海岸の住民の食べた貝殼、魚獸の骨類を棄てた塵堆場の如きものであると言はれてゐる。それで貝塚の附近には確かに人が住んでゐたに違ひない。貝塚の內には石斧や土器の破片も多數出るのが常である。

法然上人讃歌

中村和子

一
花が降る降る　青い空
み法の華が降りしきる
ひかり　ひかり
とはの光
矢稚子は此處に
生れましぬ
華も咲け咲け　分陀利華

二
鐘が鳴る鳴る　遠い空
み法の鐘が　なり響く
いのち　いのち
とはの生命
矢稚子は此處に
生れましぬ
鈴も鳴れ鳴れ　寶羅網

途上漫筆（二三）

小野生

何ヶ月かで福島行きを決行する事にした、常に東都入りの頻繁な關係から、福島は訪つれも一日延びに遷引される狀態である。これが現在の境涯から來た結果でもあらう、兎も角堆積した用務を帶びて午後四時四十五分平驛發郡山行列車は最も乘換連絡が好都合と云ふので、此時間を殊に選定した。

初夏の山容は又格別で翠黛滴らむとする綠樹、淸洌楚々たる溪流、永らく籠城せる筆者の心神には、何時か跳梁の氣が漲つて、爽快云ふべからざる或心境に彷徨するの機會を捉ふる事を得た。

車中馬場氏の著現代人物評論に耽讀して何時か郡山驛に着いた、夜の郡山市街をよそに僅五六分の停車であつたが、列車は北に北にと闇の中に突進する耽讀も亦興を唆つて倦怠を忘れた書中偶々床次竹二郎論に入るや這般の政變に最も能き衝動を與へた氏の全人格に觸れたかの如き感に打たれ、其當時の經緯を默想するの已むなきに至つた。

彼床次氏は政黨人としての出所進退が餘りに豹變あつて、確固不拔の大精神に乏しい人物であるかに想像された、この想像は又事實、徴してそう判斷せざるを得ぬ行動であつたからでもあらう。唯彼れ氏はその行動が何時も國家を第一に考ふるからだと、常に辯解的に述べて居るのを聞えたのであるが、其言辭の陋劣なるに憤慨した事一切でない。

所で這般の犬養首相の兇變後の彼れ氏の取つた行動の一部は萬事を解決して餘蘊がない常に國家本位の衷情、茲に躍如たるものが明瞭する今や國家の重大時機に際會して徒らに黨首を抗爭する如きは怪しからぬのである、此の重大時機に彼れ氏の進路は其主張通り國家本位で進退した、この行動からして馬場氏の床次論を見る、彼れ氏が民政黨を脫黨する時の彼れ氏の心情を斯く評して居る。

濱口總裁は病弱は首相の國務は總裁をして死を早める、依つて來たる後任は床次氏である、床次氏が此情を知つて止まるは濱口の死を俟つに均しい、此の世間的思惑が、彼れ氏の擧へ得ぬのが第一原因だと論じて居る、そして更に此信念から出た脫黨實現もそう信じて論斷してゐる。

茲に床次たる所謂が存在してゐる、彼れ氏の情操は此れに依つて純潔である事を想像出來る、此精神の助長が軈て彼れ氏をして大床次を完成させる潛在力となるのであらう。（五月三十日稿）

拈華微笑

校歌で氣を揉む磐女に縣代表民謠一等入選の新妻敎諭が居た

◇

三等でも偉いと思つてたに二等

◇

では益々偉い磐炭の川又大選手

◇

オール平藝選に參加。丈けでは駄目だ必勝を期すこと

◇

歸り掛けの駄賃に金鱗千貫の水揚げ、メデ鯛話

◇

產業振興は玩具から。オモチャ見たいな平町の資源涵養施設

時代警語

○雞口となるも牛後となる勿れ………（史記）

小さくとも物の頭となれ、大きくても人の尻に附くな。との俗諺と一般で人は牛馬となつて人に使はるる勿れ、小なりと雖人をも世をも導く頭の位置となれとの訓意である、蘇秦、韓王の故事あるも略す………

社會の今日

6月1日

△德川家昭地球儀を朝廷に上る（嘉永五）△五錢白銅を發行す（明治二七）△第一回勸業債券を募集す（明治三二）△北海道上川山火事千三百町步燒く、七日鎭火（昭和四）△官吏減俸案實施△アッシユ中尉太平洋橫斷飛行斷念（同六）

○

梅雨近き風おもおもと渡るなり軒ばにゆるる庭の若竹　松田常憲

短夜や木から落ちたる梟の子　白雄

講談 お蘭陀お蝶 (43)

渡邊默禪作　布施長春畫

立ち揚つてきりりつと締め直す名古屋帶、袂の側へ寄つて母舍の樣子に耳を立てた、そうして內懷に手を入れようとしながら爪立てた足に音を偸へでツツツツと殿近くに

『姉さんの仇敵、夫の怨み、い！お思ひ知れッ』

戰く聲諸共乘り冠さつて突き出す懷劍びかりと胸にきらめく呀ッ、長七郎殿の胸先から血、あたら花飛び玉碎けたと想ふ刹那、苦叫は女の口からあがつてばつたりと逆によぢ伏せられた雪なす手に一尺の光芒空しく足下に踏まれてゐる。

『さてこそおのれッ！色に託して余の命を……するさんな、その方如き賤婦の手にかかつて千金の身を捨てる松平ぢやと思ふか、亂心者奴控へ居らうぞ！』

爛として輝く眼、金鈴と打ち振る樣な叱咤の響きがひりひりと耳を打つ、この時の長七郎はたしかに紅燈綠酒の香に性根を腐らした貴公子ではなかつた、

『あゝ！く、く、口惜しいげ、現在の仇敵に、き、斬りかけながら、し、仕損ずるといふは何事ぢや、く、口惜しいッ！』

下では薄雲が身悶えしつつはつはつと呼吸をはづませてゐる、疊に突き伏せられた横顏へばらりとくづれた黑髮。

『仇敵となッ！心得ぬことを！、そちや如何なる故に余を仇と申す、公平忠信に恨な受くる覺へがない、人違へでがなあらうぞ』

利腕をとつたまま動かさぬ。

『いゝえ、言ふな／＼惡役人の但馬銀之丞に言ひ付けて、私を儘にしたい魂膽から咎めもない五郎平さんに人殺し物盜りの惡名着せ汚れた繩付にしたばかりか姉さんのお玉を舟の中で慘らしう殺させしやんした張本人はみんな此方さんであらうがな』

『おう聞えた、さてはその事であつたか』

長七郎殿は頷いた

『そりや其方の心得違ひ、身に覺えのないことぢやよい仔細を語り聞かそう、急がずと、さ、立てッ』

刄をもぎ取つてぐつと引ぎ起した

長七郎殿は先づお玉が殺されたといふ事について薄雲にその詳細を語るべく求めた、薄雲は今宵まざ／＼と、おたまが姿を現はして無念を訴えた次第を話すと殿は阿蘭陀屋敷で出逢ふた怪事を符合した樣な不思議に驚いて、それも是れも全く自分が與り知らぬこと、紹庵と但馬とが自分の忠義立てに勝手な計ひをしたものであるといふ事情から、お玉の怨靈になやまされた次第を打ち開け、それ以來夢が醒めた樣に己れの非行を悔ゆるの念ひが起つたことから、五郎平に懸けた無實の科も、さつぱりと洗つて得させた上に二人に安堵させてやるべき心底であつたと、寄寵な肚を割つて見せた。

倍てはそうかと解つて見ると薄雲は面目ないやら勿體ないやらで消えも入り度い懷ひでした、女子の淺墓な考へから是非の程もたしかめず一途に口惜しさが取詰めてさもない人を仇と狙つた、おぞましさを我から切に懺悔して顏もあげ得ず涙の下にうづくまつた。

『さ、かうして仔細を申し聞いたならよう合點ないたいたであらう、さりながら畢竟はこの忠信の不徳不仁のなすところ强ち銀之丞どもの罪とのみ申されまい、曲ゆる杖には曲がれる影のある理、原因はと云へば余の放逸無慙から身共にもあらぬ難儀をかけたのぢや』

ラヂオ

……一日…〔水曜〕…

仙臺　JOHK

△前六、三〇A　ラヂオ體操
△九、〇〇A　氣象
△九、一〇　料理獻立（路の挽肉卷）手代木休彦
日用品値段（鮮魚るい）
△一〇、三〇A　家庭講座（新時代の婦人書簡文）服部嘉香
△正午A　時報
△後〇、〇五A　映畫物語（彌太郎笠）河合香波
△〇、四〇A　ニュース、氣象
△二、〇〇A　家庭大學講座（現代と基督敎）塚本虎二
△三、四〇A　氣象
△四、〇〇　ニュース
△六、〇〇A（子供の時間）
△六、二〇A　お話コドモの新聞　東京中央放送局子供の新聞係岡村花子
△六、二五A　英語ニュース（カーレント、トピックス）ハロルド、パーマー
△六、三〇A　英語講座（初等科）岡倉由三郎
△七、〇〇A　ニュース　氣象
△七、三〇B　講演（日本と新滿洲との民族的關係）文學博士鳥居龍藏
（BK開局記念の夕）
△八、〇〇B　浪花節（乃木將軍傳…鹽原建碑の卷）京山若丸
△八、四〇B　落語（孝行糖）笑福亭松鶴
△九、〇〇B　長唄（長唄名曲定期演奏…敎草吉原雀―吉原雀）第三回
△九、三〇A　時報
△九、三一C　奉天より（六月三日まで中止）
△九、四〇A　ニュース　氣象

廣告

平町六丁目　木村醫院　電話三〇九番

平町南町　増田耳鼻咽喉醫院　電話四八二番

前田醫院　院長 前田清美　植田町電話一二四

平町田町　井坂醫院　電話五五九番

市原病院　院長 市原卯太郎　平町田町電一一四

平南町　上田醫院　院長 上田耕作　電話一二九番

めそ井　金参拾錢
大衆向うな井　金参拾五錢
特上井　金五拾錢
蒲燒（一人前）金五十錢
右弊店特々の勉强振り御試食の程を御願申上升
江戸川うなぎ　食堂
平舘前通り　電話五四九番

アンキローム…………1圓
（十二指腸虫病驅除必滅錠劑）
條滅（絶食の必要なし）……1圓30錢
（さなだむしおろし）
平町二丁目
堀藥局
電326番
平簡易保險相談所指定藥局

新車御披露
御國の爲の三勇士　三九二タクシー客の爲
御しし子吼の勢で眞先に亦も高級車着荷
一九三二年最新型高級車
ダッチブラザース號ウルトラセダン
最非御愛乘願ます……。
斯界のナンバーワンは
三九二タクシーダッチ

平町一丁目　三九二タクシー
電話　三九二　四四九番

外科　內臟外科　整形外科　外科一般　醫學士 松永憲一
產科。婦人科　院長 木村寅次郎
平新川町十九
木村病院
電話一六四番

タクシーの御用命は是非尼子タクシーへ
親切安全第一を主義と致して居ります
電六四〇番
主任　澤 資之（正路改）

磐城高女の新妻教諭 縣代表民謠一等に入選
駄作で恐縮です—と謙遜して—
應募當時の心境を語る

磐城高女新妻熊夫教諭はビクター蓄音機會社の縣代表民謠に應募し北原白秋、野口雨情、中山晋平諸氏審査の結果見事一等に入選した歌詞次の如し

げんじよ待ち待ち
磐梯山は雪だ
おかよいつまで
出てみてる
○
向ふ萱原吉さが通る
空は夕燒
流山
○
雪見炬燵に
ほんのり染めた
東山妓の頰のいろ
○
主と乘りたや
三春の駒に
たずなはなして
どこまでも
○
馬で通れば
村の娘が招く
關の勿來は花吹雪

氏は應募當時の心境に就き謙遜した態度で次の如く語る

「私は民謠作家ではなく只日本歌謠文學として和歌の相手位に研究したに過ぎない、一体民謠は一個人の手によつて勝手に作り上げ之を縣代表民謠などゝすべき性質のものでなく地方々々の人達の人情とか風俗傳說とか等に織り込まれた生活から不知不識の裡に多くの人の口に歌はれてゆくべきで私の民謠なども只單に民謠風に作つた短詩の出來損ひ位の眼で見て批評して戴きたい、應募した理由は個人的の立場から自作の發表を試み皆樣の御高說を承り度いからだつた應募は嫌ひな方で今度が生れて初めてです、駄作で恐縮です」

磐炭競技の花形 川又選手は二位
其後得點を訂正

晴れの全日本陸上競技豫選に出場した磐炭の川又多三郎君は第三日目の一昨二十九日五種競技に於て第三位の榮冠を贏ち得た旨昨報の通りであるが右成績は誤りで實際は左記の如く第二位であると

走巾飛六、三七 槍投四九、四四 二百米二三、八 圓盤投三〇、四三 千五百米五、〇四、二 得點三、一八二、七一〇

因に右得點中走巾飛と圓盤投は一等の松浦選手を凌ぐ快記錄を見せた

都市對抗野球豫選に參加
意氣昂るオール平

地方球界に隱然たる勢力を有するオール平は織田氏等の目ざましい指導振り宜しきに適し近來著しい進境を見せてゐるが今回更に一段の飛躍を期し來五日福島に於て催さるゝ東日主催の都市對抗野球豫選に參加する事となつた、メンバー次の如し

(投)佐藤、伊藤、淺妻、(捕)佐藤、小野、山崎、(一)熊、鈴木(二)水竹 本間(三)櫻田(遊)織明 田(左)坪内(中)大平 (右)森

平商生徒軍事見學
あす仙臺へ出發

平商校仙臺軍事見學團三十五名の一行は宮澤教諭、駒場配屬工兵中尉に引率され明一日午前八時二十分平發午後零時三十分仙臺驛着兵營に入り一日は設備、工兵器材を、二日は工兵障碍物破壞法、地雷爆破實況、地下戰鬪、爆彈三勇士等の近迫作業、三日は野砲兵第二聯隊現火他、野砲操練見學の後實包射擊を追回射擊で行ひ四日午後六時三十分平着で歸平する

磐中 野球練習

磐中野球部では來月二十三日より三十日迄稻門倶樂部にコーチ派遣方依頼中であつたが兩三日中に決定すると

第一校に鯉のぼり

平第一小學校では端午節句を祝つて大鯉幟數流を愈々明一日から玄關口に立てる

磐女生映畫觀覽

磐城高女全校生徒は今三十一日午後二時より世界館に於てナポレオン。寄生虫等の映畫を觀覽した

綴入山を荒し足尾で捕はる

去月下旬頃から去る二十日頃迄の間に綴入山邊の炭鑛地帶に於て數次の盜難事件あり其筋では同一人の所爲と睨み搜査中一昨二十九日早朝栃木縣足尾署の手に捕はれた當時住所不定無職熊本縣飽託郡日吉村元三の一六九生れ窃盜前科三犯佐藤松藏(三二)が前記の罪狀を自白目下引續き取り調べ中てあると

平上水道擴張工事竣功
けふ過剩部員並勞働者八十五名を解職

總工費二十六萬四千五百圓と前後三ヶ年の日子を要した平町の上水道擴張工事も愈々八幡小路地內の量水室を殘すのみで此程何れも竣功するに至つたので今三十一日町役場では擴張部員十二名及び使用勞働者七十三名に對し相當な手當金を支給した上解職の申渡しをした、尙ほ竣功式は去る中旬の豫定を豫算の關係から大體六月中旬に延期擧式の目論見で豫算一千圓を計上し目下準備中であるが式は配水池水神社前に於て參列者三百名の祝宴又は園遊會を催す筈である

郡下の健康村渡邊
案外不良は下小川、湯本
壯丁檢査成績概況

平署管內壯丁檢査昨三十日迄の成績左の如く花柳病は今の處十名で昨年より二名減で最も多いのが四倉、大野の各二である

町村	檢査人員	甲種	百分比
泉	五五	一六	二九、一
渡邊	二八	一三	四六、四
植田	五二	二〇	三八、五
山田	三九	一七	四三、六
勿來	五〇	一四	二八、〇
錦	四五	一四	三一、一
川部	四五	一二	二六、七
入遠野	五一	二〇	三九、二
上遠野	四〇	一二	三〇、〇
田人	四五	二〇	四四、四
大野	四二	一一	二六、二
川前	三六	一〇	二七、八
下小川	四三	七	一六、三
平窪	三二	一二	三七、五
四倉	六〇	一八	三〇、〇
大浦	四四	一五	三四、一
草野	四六	二〇	四三、五
澤渡	三五	一二	三四、三
永戸	四六	一三	二八、三
玉川	三三	八	二四、二
神谷	四四	一三	二九、六
平	一一五	二八	二四、四
湯本	五四	一一	二〇、四
鹿島	二六	六	二三、〇
內郷	六八	一八	二六、五

「拾つた話」—(5)—
快き六月の太陽
創造の季、跳躍の節！
タヒラで

初夏——六月、愈々あすからである、柔い土の香りを衝いて生々として草も木も總てがすく／＼と伸びて行く。その明朗な力は紺碧の六月の太陽へ少しでも近づかうとしてゐる。生きとし生ける全てのもの、そこに生命の躍動がある、この鮮しき六月の太陽の下、赫熱した活動の溶鑛爐が滾ぎる。

×

時は六月！若葉の初夏！風も薫れば心も踊る！何として家にぢつとして居られうか。

「病人ぢやあるまいし…」

豐滿なお臀の曲線を天に冲して初夏の風心地よき座敷の背疊に頰杖ついて近刊雜誌の衛生欄の成るべく現實曝露の處を拾ひ讀みして居たマドムアゼルはフレームのやうな体內の醞釀を斷然その邊に發散する氣を起して斯くは心に叫んだのである。

×

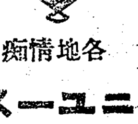
斯くして物の哀れを知り初めて玆に七八年、野暮な兩親の因襲的な干捗から跳躍の滿を持した彼女が所謂戀愛遊戲のパートナを發見したのは指折り數へて見ると丁度去年の今頃だつた事が完全に肯定出來る。

×

蓋し世にも芽出度い佳人才子の御祝儀がつい先々月頃四海波靜かに執り行はれたと思ふ間も無く本紙の慶弔錄の出生に長女S子之れと竝んで婚姻の處に〇△子(二七)〇〇男(三〇)詰り婚姻と出生が同時で玆許些か非論理的な場面を見せてゐるからである。

×

彼女は竟に創造の源であり地上の太陽であり、慰安であり、宗教である人の子の母となつた、何と目まぐるしい旋轉なるよ、若い男女の活動の溶鑛爐から骸炭見たいに拾つた話、而も實話だから物凄くなる。



各地痴情ニユース

△哀れ十四で賣春 名古屋市東區下飯田町大原とし子(一四)假名は昨年暮同町の雜貨商小林喜兵衛方へ女中といふ名儀で行つたが、喜兵衛は無理矢理に他の男に春を賣らせた上每夜の如く堀川端へ連れ出して淫賣を强ひてゐたことが判明して名古屋署に檢擧された

△女湯を覗き步く 最近岐阜市內西部の女湯を戸別にのぞき步いて悅に入つてゐる男があり、偶には女を尾行して尻をなでたりするといふ噂が高いので近頃物騷千萬と岐阜署員が密行檢擧に努めた處果して同市忠節町高端衙二(二八)の所爲と判明して直ちに逮捕された

△姦通の妻を告訴 岡山縣赤磐郡山方村中山同村在郷軍人分會長堀井一男(三五)は二人の子のある隣村佐伯北村高田自轉車商岩藤剛妻智子(二九)と手に手を取つて驅落したので豫て夫から保護願ひ中佐世保に潛伏してゐる事が判明したので此程離婚の手續を執ると共に姦通の告訴を提起した

△暴行未遂の痴漢 岡山縣久米郡稻岡村大字北庄山手玉野猪村(三五)は本年一月十七日猪村方居宅門の路上で同所綾部智加子(一七)に暴行せんとして果さずその際左肩先に治療四週間の傷を負はせた事この程發覺し强姦未遂として加美署に檢擧された

歸り掛けの駄賃に鯛千貫の大漁
磐城丸豫算外の收獲

小名濱町水產試驗場指導船磐城丸は去る二十五日同港出帆千葉縣野島沖百五十浬の海區より鰹探漁の歸途鯛の大群を發見し千貫匁を漁獲して昨三十日未明歸港したが鯛の水揚相場は二十五割で頗る賣行良好であると尙今年は潮流の關係から末だ鰹群の洄游を見ぬが來月中旬頃潮流の變化と共に相當の漁獲があるものと觀られて居る

平町の人口はどう膨れる
昨年中の生死統計
差引百八十九人增加

平町に於ける昨年中の出生死亡は

	出生	死產	死亡
男	二四九	一三	一四九
女	二二三	一四	一三三
計	四七二	二七	二八三

で差引百八十九人を增し漫ろに平町の人口增殖振りを物語つてゐる、尙ほ季節別に見ると出生、死亡共三月に多く死產は十二月に最も多い、尙ほ之れを原因別にすると傳染病八四、全身病二九神經及感覺器の疾患七八血行器の疾患一六、呼吸器病七八、消化器病三一泌尿生殖器病一六、骨病一、乳兒四二、老年二三外因死一七、不明一

內郷消防擴張計劃
鑛業稅委讓を當て込み自動車ポンプ購入を決議

內郷消防組ではガソリン喞筒二臺他は悉く腕用のみで人口三萬五千を有する同村の現勢に相應しからぬものあるので過般來寄々自動車喞筒の增置を協議中であつたが愈々此程の村會に於て明年度鑛產稅委讓に因る三萬五千圓の收入を以て購入する事に決定した、尙は組頭佐藤三平氏の寄附により村內數十個所に指導標を建設すると

貯水池新設
玉川消防の奉仕

玉川村大字岩山及住吉部落は戸數百餘戸を有して居るが水利の便殆どなく出火に當つては飲料水を使用し其の不便少くなかつたので此程消防組員が出役延人員百名の奉仕に依り工費百圓を以て三百石入りの鐵筋コンクリート貯水池を設置し挿秧期及火災時に備ふる事となつた

平町の物產振興
皮切りは木工玩具
◇赤井嶽に出店開設

平町では過般町資源涵養調査會に於て決議した物產振興の一として取敢へず現在十五丁目佐藤挽物製作所に於て製作しつゝある木工玩具類に一段の改良を加へ鄕土色豐かな特色ある平名物として獎勵販賣せしむる事となつたが先ず最初の試みとして閼伽井嶽に同店の出張販賣店を新設し近く大々的に賣出す事となつた

平區略式命令

錦村大字大倉根本秀松(三三)は二月四日鹽鮭販賣中從業者根本作間が分銅の垂紐を修繕した二貫匁秤を使用し平區で二十圓△双葉郡久之濱町大字田之網漁業田中菊太郎(三八)は去月二十六日石油發動機船龜松丸に乘込み禁漁區域內の豐間村沼の內沖合三浬間の海上で底曳をなし六十圓△小名濱町字橋本肥料商小野善助(三六)は無免許で去る五日多賀郡磯原町地內で貨物自動車を運轉し十圓を略式命令さる

怪しい男を拉致

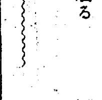
旣報去る二十九日夜四倉町字本町吳服商渡邊熊藏方の店頭より賣上げ金四圓餘入れの手提げ金庫を竊取逃走せる曲者に就き四倉署で搜査中自稱平町字南町丸江屋事木田勇(三〇)を擧動不審として引致したが本人乘用の自轉車々號平四九一九番により取り調べた處所有者は赤井村字南原一番地松本德太郎名儀で不審の點あり引續き取り調べ中

北目にチフス

平町北目町櫻村キミ(三三)は昨三十日腸チフスで隔離された

四倉通信

●○●○● 新道路開通式 四倉町字本町國道より東通りに通ずる幅員十一尺の橫道路は先月來開通工事中の處此程完



六月一日 水曜 舊四月二十七日 癸巳 赤口 建 軫宿

諸判定應需 東京市本鄉區湯島四丁目五番地 高島易斷總本部 神誠館

▲一白の人 勤勞を厭はず實行を先にして喜びをみる吉日▲二黑の人 勇奮して進まるれば勢力次第に伸ぶべき日▲三碧の人 諸事穩かならずじ出を欠き窓の如くなす▲四綠の人 前途に不安あるも氣折れせず忍苦すべき日▲五黃の人 一家圓滿に足並をそろへて前進せらるゝに吉▲六白の人 甘言誘惑のわなに陷り易き日志を堅固に持て▲七赤の人 自己の力を賴み慢心すれば災ひを招く事あり▲八白の人 機會おのづから廻り來りて活動し在に功果を揚ぐ▲九紫の人 終始怠らず常業に勉むれば良果を結ぶべし

兩宮殿下御買上の 御料鹽豚(コーンポーク) 田町 三三肉店 電ワ三二三番

廣告 藤沼醫院 平町紺屋町電五〇七

植田支局 支局長 樋田久 旭町一一 相談役 渡邊義一

御座敷幟 布鯉紙鯉 武者人形 御道具一式 每度難有く御禮いたします。例之通り澤山取揃へ破格にて御願ひ致します。是非叶星豆屋を指して御來店の程御待ち致します。 三丁目本通り 加藤提灯店 叶星號

初夏サロンの新裝 店內清楚にして氣持良く アイスクリーム(十五錢) タンク入りソーダ水(十五錢) ドーゾ御用命を…… 田町 サロン 電三五二番 (男給見習數名募集)

金融 銀行員、鐵道員、教員、有給官吏確實ナ御方ニ貸シマス。希望者ハ返信料を添へ、住所氏名職業金額ヲ明記シ御申込下サイ。親切、祕密、迅速ニ融通シマス。 常磐線平町舊城跡四十二 常磐商會

お醬油は……ヤマフル 鹽屋 山崎合名會社 福島縣平町 電話(營業部一〇番 本店二七番) 味噌 醬油 たびら正宗 鰹節 食料品 明治生命磐城代理店 山崎與三郎

高久病院 平町田町 (電話五一三番) 醫學士 高久忠 新潟醫學士 赤羽清 藥劑士 佐竹菊雄 內科 小兒科 外科 花柳病科 耳鼻咽喉科 レントゲン科